

① 歌合色紙 小野篁像 伝鷹司輔信か

江戸時代(十八世紀)

思ひきや鄙の別れにおとろへて海人の縄たき漁りせむとは

〔古今和歌集〕卷十八雑歌下 九六一番、

〔隠岐国に流されて侍りける時によめる〕



② 歌合色紙 西行法師像 伝鷹司輔信か

江戸時代(十八世紀)

秋篠や外山の里やしぐるらん生駒の嶽に雲のかかれる

〔新古今和歌集〕卷六冬歌 五八五番、題知らず



新古今和歌集卷九

離別歌

あはれくもくもくゆめく人しゆ
ろくはくもくもくゆめく

紀貫之

たふかこのふれ山をさういへは
つらうさうさうさうさう思

伊勢

あはれくもくもくゆめく人しゆ
ろくはくもくもくゆめく

伊勢

あはれくもくもくゆめく人しゆ
ろくはくもくもくゆめく

大伴能宣朝臣

あはれくもくもくゆめく人しゆ
ろくはくもくもくゆめく

賀正

あはれくもくもくゆめく人しゆ
ろくはくもくもくゆめく

③新古今集切 伝吉田兼好

鎌倉〜南北朝時代(十三〜十四世紀)

新古今和歌集卷九 (八五七〜八六六番)

離別歌

陸奥国に下りける人に、装束贈るとよみ侍りける

紀貫之

たまほこの道の山風寒からは形見がてらに着なんとぞ思ふ
題知らず 伊勢

忘れなん世にも越路の帰山いつはた人に逢はんとすらん
浅からず契りける人のゆき別れ侍りけるに

紫式部

北へゆく雁のつばさにことづてよ雲のうはがき書き絶えずして
田舎へまかりける人に、旅衣遣はずとて

大中臣能宣朝臣

秋霧の立つ旅衣置きて見よつゆばかりなる形見なりとも
陸奥国に下り侍りける人に

紀貫之

見てだにもあかぬ心をたまほこの道の奥まで人のゆくらん
逢坂の関近きわたりに住み侍りけるに、遠き所に

まかりける人に饒し侍るとて

中納言兼輔

逢坂の関にわが宿なかりせば別る人は頼まざらまし
寂照上人入唐し侍りけるに、装束贈りけるに、

立ちけるを知らで、追ひて遣はしける

誦人しらず

きならせと思ひしものを旅衣立つ日を知らずなりにけるかな
返し 寂照法師

題知らず

衣河見なれし人の別れには袂までこそ波は立ちけれ
陸奥国の介にまかりける時、範永朝臣のもとに

遣はしける

高階経重朝臣

ゆく末にあぶくま川のなかりせばいかにかせまし今日の別れを

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

やまとうた―美のこころ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 39

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年十月八日発行

© 2005, The Museum of the Imperial Collections